

「貴重な体験をして」

豊岡市立出石中学校三年 越江 香月

十月二十日で一年が経ちました。台風二十
三号で私たち家族は、今まで住んでいた家に
住めなくなりました。

服も教科書もなく、一つの部屋に知らな
い人達とざこ寝をする保健センターでの避難
生活は、つらかったしとても大変でした。プ
ライバシーのない生活が、これほどつらいと
は思いませんでした。

そんな時何より嬉しかったのは、友達がた
ずねてきてくれる事でした。幼稚園の時転校
した友達も、ニュースを聞いて、わざわざ明
石からかけつけてくれました。

また、保健センターに届いた数々の救援物
資の中には、すぐに使える生活用品はもちろ
ん、ぞうきんにメッセージの書かれたものな
どもあり、私はそれを見るたびに元気をもら
いました。見ず知らずの私たちのために、泥
を運ぶなどの重労働を、文句ひとつ言わない

2

で手伝ってくれるボランティアの方々の姿を見るとき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。友達や近所の人、ニュースを聞いて手紙やファックスで応援して下さった方々の思いやりは、私達に頑張るという事を教えてくれました。

2

これからこの経験をいかし、いろんな災害にあわれた人達に恩返しが出来ればと思っています。被災者にとって一番必要なことは助け合い、支え合うことです。私は避難生活中、

2

どんなにいい物ももらうよりも、心配してくる周りの人の気持ちの方がずっとうれしかったからです。あの時の感謝の気持ちを忘れずたとえつらい出来事でも前向きに考えていけるようになれたらいいなと思います。

避難先から見た、水沈した自分の家や小学校は今でも忘れることはできません。しかし、たくさんの人に支えられながら、家族皆で力をあわせて頑張れたことが、私にとって一番大事な思い出です。